これが俺たちのオリンピック
消防魂
燃やせSBDs

火点は前方の標的なり。手びろめによる二重巻ホース1線延長」響き渡る声に続いて4人の消防団員たちが直線距離50mのホースの延長、移動、放水を始めます。

彼ら消防団員は、消防士とは違い、各人が仕事を持ち、火災など緊急の招集があると、それぞれの地域に出動する人たちです。

現在12分団、総団員285人で構成され、そのうち32人が女性団員となっています。

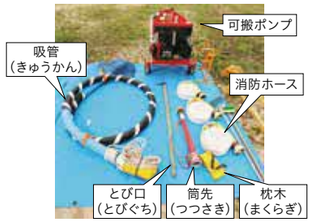
7月2日、連日の雨も上がり、晴海臨海公園で19回目となる『消防団ポンプ操法大会』が開催され、11月に行われる県大会への出場分団が決まりました。

本来は4年に1回の開催ですが、新型コロナウイルスの影響で延期されていたため7年ぶりの開催です。

指導者や選手の世代交代があった中、一部の分団を除く10分団から1チーム4人、計40人の選手が出場。約2カ月の練習を重ね、「あの分団、あの人には負けない」「入賞を目指そう」「県大会への進出を」と、それぞれの目標に向かって全力で声を出して、きびきびと動く団員たちの姿がありました。

消防ポンプ操法競技とは、決められた時間内での操作要領・行動・動作全般を審査・採点し、総合点の高さを競うものです。採点は、指揮者、1・2・3番員それぞれの操作の不適、合図の誤りなどを持ち点から減点する方式。また、ホース延長操作から放水までの所要時間が基準時間（60秒）より速いか遅いかによって加点または減点します。

こうした一連の操作や絶妙なチームワークによって短時間で安全・確実にできるかどうかが見どころの競技です。



可搬ポンプ：放水量毎分1,000ℓ
吸　管：ポンプと接続し、水をポンプまで吸い上げるのに使用。
とび口：破壊器具。大昔、消防車が無い時代、建物火災の延焼拡大を防ぐため、燃えていない建物を破壊して延焼を阻止していました（破壊消防）。その際に使用していたものの一つがとび口です。現在は、建物を破壊することはありませんが、火災現場で燃えているものをこれを使って移動させたり、火災建物の軒先などに落下しそうなものを事前に落としたり、天井裏を消火する際、天井に刺して、天井を落としたりしています。
筒　先：延長したホースの先端に取り付けて放水する器具
枕　木：吸管で水を取水する際に、吸管の損傷を防ぐ目的の器具。
ホース：内径65mm、長さ20m

第19回大会結果

優勝　第4分団（栄町地区）
平成28年に開催された第18回大会に続き優勝を納めました。

準優勝　第2分団（本町・白石・新町地区）

3位　第1分団（元町地区）

頑張れ、お父さん

会社の先輩からの勧めで消防団に入ったお父さん（慧さん）が、2番員として出場するため大会を見に来た親子。

お父さんが走るときに一緒に走り、会場を笑顔にした莉子ちゃん。「頑張ってた100点」とお父さんを褒めます。

文乃さんは、「こんな大会があることを初めて知りました。実際の火災現場でこんなふうにできるのかな」。現場で焦らないかと心配していました。

長谷川 文乃さん
莉子ちゃん（5歳）

大会の開催・運営には多くのサポートが

今回、人数が集まらないなどで出場できなかった松ケ原地区などの団員たちが、水を掃くなどの補助をし、大会のスムーズな運営を支えました。

女性消防団員も司会や、集計などで活躍しました。

（右）次の出場分団のためにコースにたまった水を掃き出します。（左）女性消防団員も運営側で支えます。

笑いあり、涙あり

3位入賞。その背景には…

6月25日に行われたリハーサルのくじ引きで、当日のトリを務めることとなった第1分団。

そんな第1分団は、前回の大会で全体で2位、2番員が個人賞でMVPを獲得したという実力者ぞろい。しかし第1分団の方針は、「こういう練習が消防団の活動に生きる」という理由で、毎回オール未経験者を送り出します。

新メンバーでの練習は、各員の仕事を終え、日も暮れる19時ごろに集合。最初は1週間に1回、過去の先輩たちのビデオを参考にして、少しずつ動きの練習に入りました。ゴールデンウィーク明けから本格的な練習に入り、週に2回の練習が始まります。6月からは週に3回、梅雨時期のためグラウンドの状態がよくないときでも欠かさず練習に励みました。

練習場所のグラウンドには他の分団も集まるため、実際に放水する本番さながらの練習は、順番を待たなくてはいけません。順番が来るころには21時を回っていることもありますが、待つ間にも、動作確認、手の位置、足の角度など規律や各選手の癖などを徹底的に確認します。少しでもタイムを縮めるため、無駄な動作はないかなど、妥協せず一つ一つ打ち込む姿がありました。

練習では、他の分団の動きも見逃すまいと、一挙手一投足に注目します。見終わった後は、指導者同士話し合ったり、他分団の選手へ鼓舞や助言をしたりする姿から、この大会をみんなで盛り上げようとする思いがうかがえます。

大会まであと3日。分団長の「まだできる。もっとできる」という声とともに、より速さを求めて新しいことに挑戦してみる第1分団。「やってみてうまくいけばもうけもん」と選手の背中を押します。

「あれせぇ、これせぇ」と言わず自分で行動できるようにと考え指導する分団長（上）と副分団長（右）

最後の練習日、雨が降る中行われた練習では、最高記録の53秒が出ました。初めはまったくタイムが出ず、1分という壁が超えられませんでしたが、ここ数日でやっと切ることができた。「優勝するで、どうする（笑）」と大会への自信と、士気が高まります。

いざ本番、結果は？

大会当日、最後という緊張感の中、円陣を組み「いざ出陣」とばかりに戦いの場に臨みます。

結果、総合点が伸び悩み3位となりましたが、タイムは54秒66。次のタイムの分団に比べ2秒44も差をつけて最速でした。

「手が震えて〝気をつけ〟がうまくできんかった。声を出せば出すほど震えがひどくなった」と緊張の極限だった大加瀬純一さん（指揮者）。それでも結果に満面の笑顔です。

福山直俊さん（1番員）も「朝から緊張。緊張してないって自分に言い聞かせてた」と無事に終えて安心の様子。蔦川宏一さん（2番員）は、「3カ月間練習したかいはあった」と喜びを隠せません。村岡順さん（3番員）は、「仕事で出られないときは申し訳なかった。一生懸命やったからこそ達成感もあった」と満足げな様子です。

「大会は4年に1回開催されていて、これが自分たちにとってのオリンピック」と語る副分団長の長光世治さん。「優勝するかと、ドキドキしてたら3位。でも盛り上がったよね」とほほ笑みます。

分団長の長光大治さんは「涙が止まらんかった。優勝はできなかったけど、（他の団や観客）の心を打つのは一番だったと思います」。選手をねぎらう言葉をかけました。

たのしみは練習後の反省会

「やったつもりでもできてないことがある」など汗を流した後は、反省会。世間話にも花が咲きます。「家で笑われながら練習してる」という指揮者の大加瀬さんの言葉に笑いつつもうなずく経験者陣。

最初はロボットのように手足が一緒に出ていたという選手たちを見て、「ここまでよく成長した。どうなるかは分からない。でも良い結果が出れば」と団長。

大会を終え、山代団長に聞く

7年ぶりの開催で、各分団では退団した人や、指導員も選手も変わり大変だったと思う。この大会は、基本の動作、規律と節度などが凝縮されているのでとても意味のあるもの。

各分団とも手探り状態で一生懸命やったからこそ、より一体となって訓練ができ、団結力もアップしたと思う。だから盛り上がった大会となった。

消防士が担当するのは大きな災害。消防団は、自治会などからのこまごまとした要請や災害にも行く。近くだから俊敏に活動でき、お互い知っているから、言いやすく聞きやすいところが消防団の魅力。「大会に出たい」「地域のために何かしたい」どんな気持ちでも、興味をもって団に入ってくれる人が増えるとうれしい。

次回は、今回以上にレベルアップして、みんなで盛り上げてほしい。

消防団長
山代　文隆さん（63歳）

ハヤブサ消防団

池井戸 潤　著（集英社）

亡父の故郷である山村のハヤブサ地区に移住したミステリ作家の三馬太郎は、地元住民の誘いで消防団に入団します。やがてのどかな田舎で発生する連続放火事件の謎に巻き込まれていくことに。火災現場での消防団の活躍や、ポンプ操法大会の様子も描かれています。中村倫也主演の連続ドラマ放送中。

消防団員募集

消防団は若い力、女性の力を必要としています。
自分の大切な町、
大切な人を
一緒に守りましょう。

問い合わせ　消防本部消防課
☎53-7708

入団申請用
QRコードです。

練習は本番のように 本番は練習のように 平常心で臨む

消防救助技術指導会

救助技術の向上を目指して行われる「消防救助技術指導会」。

6月19日、消防署で中国大会に出場する広島県代表選手を決める署内選考会が行われました。

種目は『ほふく救出』『ロープ応用登はん』の2種目。それぞれ3組の隊員が、タイムや正確さを競いました。

開会式では「市民のため、防災のため、日頃の訓練の成果を発揮して、使命感をもって取り組んでください」と市長が選手を激励します。

1種目目に行われたのは『ほふく救出』。これは3人1組（要救助者含む）で行う競技です。スタートの合図とともに器材まで猛ダッシュ。煙道へ入る1人は素早く空気呼吸器を装着。足にロープをくくり付け長さ8mの狭い煙道に飛び込みます。要救助者を発見・救出し、ロープをたどって煙道を脱出。2人で要救助者を抱きかかえ安全な地点まで搬送します。

2種目目『ロープ応用登はん』は、2人1組で登はん者と下でロープを支える補助者が協力して壁を登る競技です。

スタートすると登はん者が補助者の左足、右肩を踏み台にしてロープに飛びつき、補助者と息を合わせて高さ15mの到達地点を目指して、みるみるうちに登っていきます。

練習は、二交代勤務のためメンバーの時間が合わないことや、雨でできない日もありました。普段の勤務時間を練習に充てたり、休日にも特訓したりするなど、日々練習に励んだ成果がうかがえる選考会でした。

中国大会に出場した5人の勇士。左から『ロープ応用登はん』高野純一司令補・荒木一宏副士長。『ほふく救出』新畑貴大士長・國濵一将司令補・中川和真副士長。

中国大会に向けて
新畑士長・荒木副士長にインタビュー

選考会はいかがでしたか―

新畑「要救助者を見つけてロープで合図を送るとき、ロープが手から離れてしまうミスがあった。他のチームもミスがあった中、タイムが1番だったので、代表に選ばれました」。

荒木「ミスしたら負けるという焦りと不安があった中、平常心で普段通りのことができてよかった」。

選手として感じる、この大会の意味は何でしょう―

新畑「1つのはっきりとした目標（署内から中国、中国から全国大会へ）を持ち、チーム一丸となって達成することです」。

荒木「勝ち負けの世界。ミスなく平常心であれるか。そういうところが実際の業務（災害現場）と同じ状況なので、この訓練が現場で生かされると思います」。

見事！全国大会出場

7月19日に岡山市で行われた中国大会の『ロープ応用登はん』で、広島県勢としてトップの成績をおさめた大竹市代表チーム（高野純一司令補・荒木一宏副士長）は、8月25日に札幌市で開催される全国大会に駒を進めました。

この種目での全国大会出場は、平成22年の京都大会以来です。

中国大会を制した2人に意気込みを聞いてみました。

高野「全国大会に出場できてうれしいです。大会に向けて、さらに練習を積んでいきます。練習は本番のように、本番は練習のような気持ちで臨みたいです」。

荒木「人生のページにこうだったと、記憶を記録として残すことができた思いです」。

2人の健闘を祈ります。

申し込みは8月23日㈬まで
令和6年度採用予定
市職員募集

問い合わせ
総務課　☎59-2122

持参による申し込み

8月23日㈬まで（土・日曜日、祝日を除く）8時30分～17時15分

郵送による申し込み

8月23日㈬までの消印のあるものに限り受け付けます。申込書を折らずに封筒に入れ、封筒の表に『受験申込』と赤色で明記し、総務課に郵送してください。なお、8月21日㈪以後に投函（とうかん）する場合は、速達にしてください。

提出書類

○所定の申込書

※申込書は、総務課や市ホームページにあります。

○6カ月以内に撮影した正面向き、上半身無帽の写真

※縦4・5㎝×横3・5㎝のものを申込書の所定欄に貼ってください。

○返信用封筒1部（受験票返送用）

※長型3号（12㎝×23・5㎝）の封筒に、84円切手を貼り、郵便番号・宛先・氏名を明記してください。

提出先

〒739-0692
大竹市小方1-11-1
大竹市総務部総務課職員秘書係

受験票の送付

受験票は、9月6日㈬までに受験番号を記入して返送します。9月8日㈮までに到着しないときは総務課まで連絡してください。

第1次試験

とき

9月17日㈰9時30分

ところ

ギャラリーおおたけ（市立図書館2階）、総合市民会館

合否発表

第1次試験の合格発表は10月3日㈫です。合格者の受験番号を市役所本庁舎1階掲示場（南玄関前）に掲示するほか、市ホームページに掲載します。なお、合格者には個別に通知します。

その他

受験案内や申込書は、市ホームページに掲載しています。

職種別の定員・対象・試験内容

職　種	定 員	対　象	第1次試験の試験内容
一般事務職	若干名	平成5年4月2日以降に生まれた方（令和6年4月1日の年齢で30歳までの方）	○**教養試験（択一式）**【120分】 **出題分野：**時事、社会・人文、自然に関する一般知識、文章理解、判断・数的推理、資料解釈 ○**職場適応性検査（消防職は、消防適性検査）**【20分】
消防職	若干名	平成9年4月2日以降に生まれた方（令和6年4月1日の年齢で26歳までの方）で視力が矯正を含み、両眼で0.7以上かつ一眼それぞれ0.3以上で強度の色覚障害のない方	
土木技術職	若干名	平成5年4月2日以降に生まれた方（令和6年4月1日の年齢で30歳までの方）	○**専門試験（択一式）**【90分】 **出題分野：**数学、物理、情報技術基礎、土木基礎力学（構造力学、水理学、土質力学）、土木構造設計、測量、社会基礎工学、土木施工 ○**職場適応性検査**【20分】
建築技術職	若干名	平成5年4月2日以降に生まれた方（令和6年4月1日の年齢で30歳までの方）	○**専門試験（択一式）**【90分】 **出題分野：**数学、物理、情報技術基礎、建築構造設計、建築構造、建築計画、建築法規、建築施工 ○**職場適応性検査**【20分】

（注意1）筆記試験問題は、活字印刷文による出題となります。
（注意2）職場適応性検査または消防適性検査は、第2次試験以降に行う個別面接の際に参考資料として活用します。
（注意3）地方公務員法第16条の「欠格条項」に該当する方は受験できません。
（注意4）消防職を除き、次に該当する日本国籍を持たない方も受験できます。ただし、採用後、公権力の行使または公の意思の形成に参画する職に就くことはできません。
○出入国管理及び難民認定法による永住者（令和6年3月31日までに取得見込みの方を含む）
○日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法による特別永住者（令和6年3月31日まで取得見込みの方を含む）